



セールスフォース・ドットコム：Salesforce Spring '08

# Salesforce の承認プロセス

## 活用例のご紹介



- Salesforce で経費申請を追跡するために、「経費申請」という名称のカスタムオブジェクトとタブを作成します。詳細については、オンラインヘルプで「カスタムオブジェクト項目の定義」、「カスタムタブの定義」のトピックを参照してください。カスタムオブジェクトとタブを作成した後、「金額」、「説明」、「状況」、「開始日」、「終了日」など、申請で使用される項目を追加します。
- 申請が割り当てられたことを承認担当者に対して通知する電子メールテンプレートを作成します。テンプレートには、承認プロセスの差し込み項目を組み込み、ユーザが直接承認プロセスのページにアクセスできるようにします。詳細については、オンラインヘルプで「電子メールテンプレートの管理」のトピックを参照してください。
- 「事業所」というユーザオブジェクト上にカスタム項目を作成し、本社オフィスのユーザに対して、値「本社」を割り当てます。
- 承認プロセスを作成します。次の手順を実行します。
  - 承認プロセスを管理するオブジェクトとして、[経費申請] カスタムオブジェクトを選択します。
  - 本社オフィスの従業員のみを対象に承認プロセスを使用するため、[入力条件の指定] セクションで対応する条件を設定します。[項目] に [現在のユーザ：事業所]、[演算子] に [次の項目と一致する]、[値] に [本社] をそれぞれ指定します。
  - 承認申請を自動的に割り当てるユーザを設定します。[自動承認ルートに使用する項目の選択] セクションの [割り当て先として使用するユーザ項目] ドロップダウンリストで [マネージャ] を選択します。
  - [承認の割り当て] セクションで、作成済みの電子メールテンプレートを選択します。
  - 経費申請を許可するユーザを指定します。レコードの所有者のほか申請を許可したいユーザが存在する場合は、[申請者] セクションで追加を行います。
  - 次の2つの承認ステップを作成します。

#### 1つ目のステップ：マネージャの承認

- ステップの名前として「ステップ1：マネージャの承認」と入力します。
- 経費の総額が 5,000 円以上の場合にこのステップを適用するように指定し、5,000 円未満のレコードが自動的に承認されるようにします。
- 承認者の選択では、[選択したユーザ項目を使用して自動的に承認者を割り当てる。(マネージャ)] を指定します。
- 承認者のユーザレコードで代理承認者が指定されている場合は、必要に応じて、[代理承認者もこの申請を承認可能にする。] チェックボックスをオンにします。

#### 2つ目のステップ：部門長の承認

- ステップの名前として「ステップ2：部門長の承認」と入力します。
  - 経費の総額が 500,000 円以上のレコードで承認ステップを適用するように条件を指定します。
  - [承認者の選択] セクションで、[ユーザが承認者を手動で選択する。] を選択して、マネージャが適切な部門長を手動で選択できるようにします。
  - 承認者のユーザレコードで代理承認者が指定されている場合は、必要に応じて、[代理承認者もこの申請を承認可能にする。] チェックボックスをオンにします。
  - [このステップの却下時のアクションのみ実行し、承認申請を最新の承認者に戻します。] を選択して、部門長が申請を却下した場合には、マネージャに申請を戻して、そこで変更を行うことができるようにします。
- 最終承認時のアクションとして、以下の内容を追加します。
    - [状況] 項目の値を自動的に [承認済み] に変更する項目自動更新のアクションを追加します。
    - 経費申請を提出したユーザに承認通知の電子メールを送信するアクションを追加します。
    - 精算書出力のためにバックオフィスの経理システムにアウトバウンドメッセージを送信するアクションを追加します。
- [経費申請] オブジェクトのページレイアウトに [承認履歴] 関連リストを追加します。詳細については、オンラインヘルプで「ページレイアウトのカスタマイズ」のトピックを参照してください。
  - [未承認申請] 関連リストをユーザのホームページに追加します。これにより、対応が必要な承認申請が提出されていることが Salesforce にログインした時点でわかるようになります。ホームページのレイアウトを変更する方法については、オンラインヘルプで「ホームページレイアウトの設計」のトピックを参照してください。
  - Sandbox が利用可能な場合は、承認プロセスのテストを実行します。
  - 承認プロセスを有効化します。

## 商談での値引申請

ここでは、営業担当者が商談で 40% を超える値引を行う場合に CEO の承認を必要とする例を使って、1 つのステップから構成される値引申請の承認プロセスについて説明します。

- 申請が割り当てられたことを承認担当者に対して通知する電子メールテンプレートを作成します。テンプレートには、承認プロセスの差し込み項目を組み込み、ユーザが直接承認プロセスのページにアクセスできるようにします。詳細については、オンラインヘルプで「電子メールテンプレートの管理」のトピックを参照してください。
- 値引率を入力する [値引率] という名前のカスタム項目を [商談] レコードで作成します。[データ型] には [パーセント] を指定します。
- CEO によって値引が承認されたかどうかを示す [値引承認済み] というカスタム項目を [商談] レコードで作成します。[データ型] には [チェックボックス] を指定します。
- 承認プロセスを作成します。次の手順を実行します。
  - 承認プロセスを管理するオブジェクトとして、[商談] オブジェクトを選択します。
  - [入力条件の指定] セクションで対応する条件を設定します。[項目] に [値引率]、[演算子] に [>=]、[値] に [0.04] をそれぞれ指定します。
  - 後続の手順で CEO がすべての申請の承認を実行することを指定するため、[承認者の選択] では、自動的に承認者を割り当てるオプションを指定する必要はありません。
  - [承認の割り当て] セクションで、作成済みの電子メールテンプレートを選択します。
  - 承認申請の実行を許可するユーザの指定では、所有者のみを選択します。
  - 承認ステップを 1 つ作成します。提出されるすべてのレコードに対して承認、却下のいずれかの処理を実行するため、フィルタ条件は特に設定しません。詳細については、オンラインヘルプで「承認ステップの作成」のトピックを参照してください。
  - [承認者の選択] セクションで [割り当て先] を指定して、CEO の名前を選択します。
  - 承認者のユーザレコードで代理承認者が指定されている場合は、必要に応じて、[代理承認者もこの申請を承認可能にする。] チェックボックスをオンにします。
  - 最終承認時のアクションとして、以下の内容を追加します。
    - 値引申請を提出したユーザに承認通知を送信する電子メールアクションを追加します。
    - [商談] レコードの [値引承認済み] チェックボックスの値を自動的にオンに変更する項目自動更新のアクションを追加します。
- 商談のページレイアウトに [承認履歴] 関連リストを追加します。詳細については、オンラインヘルプで「ページレイアウトのカスタマイズ」のトピックを参照してください。
- [未承認申請] 関連リストをユーザのホームページに追加します。これにより、対応が必要な承認申請が提出されていることが Salesforce にログインした時点でわかるようになります。ホームページのレイアウトを変更する方法については、オンラインヘルプで「ホームページレイアウトの設計」のトピックを参照してください。
- Sandbox が利用可能な場合は、承認プロセスのテストを実行します。
- 承認プロセスを有効化します。

## 採用候補者の管理

企業が採用候補者の面接を行ってから最終的な内定を決定するまでの過程には、多くの場合、段階的な承認プロセスが存在します。ここでは、3 段階で異なる階層の管理職が承認を行うという例を使って、3 つのステップから成る承認プロセスについて説明します。

- Salesforce で採用候補者の管理を行うために、「採用候補者」という名称のカスタムオブジェクトとタブを作成します。詳細については、オンラインヘルプで「カスタムオブジェクト項目の定義」、「カスタムタブの定義」のトピックを参照してください。カスタムオブジェクトとタブを作成した後、「給与」、「内定承認済み」、「採用日」などの関連項目を追加します。
- 申請が割り当てられたことを承認担当者に対して通知する電子メールテンプレートを作成します。テンプレートには、承認プロセスの差し込み項目を組み込み、ユーザが直接承認プロセスのページにアクセスできるようにします。詳細については、オンラインヘルプで「電子メールテンプレートの管理」のトピックを参照してください。
- 承認プロセスを作成します。次の手順を実行します。
  - 承認プロセスを管理するオブジェクトとして、[採用候補者] カスタムオブジェクトを選択します。
  - 提出されるすべてのレコードに対して処理を実行するため、フィルタ条件は特に設定しません。

- 承認申請を自動的に割り当てるユーザを設定します。[自動承認ルートに使用する項目の選択] セクションの「割り当て先として使用するユーザ項目」ドロップダウンリストで「マネージャ」を選択します。
- 「承認の割り当て」セクションで、作成済みの電子メールテンプレートを選択します。
- 内定申請を許可するユーザを指定します。レコードの所有者のほか申請を許可したいユーザが存在する場合は、「申請者」セクションで追加を行います。
- 以下の3つの承認ステップを作成します。

#### 1つ目のステップ：マネージャの承認

- ステップの名前として「ステップ1：マネージャの承認」と入力します。
- マネージャの承認は、すべてのレコードで実行される処理であるため、フィルタ条件は特に設定しません。
- 「承認者の選択」セクションで、「選択したユーザ項目を使用して自動的に承認者を割り当てる。(マネージャ)」を指定します。
- 承認者のユーザレコードで代理承認者が指定されている場合は、必要に応じて、「代理承認者もこの申請を承認可能にする。」チェックボックスをオンにします。

#### 2つ目のステップ：部門長の承認

- ステップの名前として「ステップ2：部門長の承認」と入力します。
- 部門長の承認は、すべてのレコードで実行される処理であるため、フィルタ条件は特に設定しません。
- 「承認者の選択」セクションで、「ユーザが承認者を手動で選択する。」を選択して、マネージャが適切な部門長を手動で選択できるようにします。
- 承認者のユーザレコードで代理承認者が指定されている場合は、必要に応じて、「代理承認者もこの申請を承認可能にする。」チェックボックスをオンにします。
- 「このステップの却下時のアクションのみ実行し、承認申請を最新の承認者に戻します。」を選択して、部門長が申請を却下した場合には、マネージャに申請を戻して、そこで変更を行うことができるようにします。

#### 3つ目のステップ：CFOの承認

- ステップの名前として「ステップ3：CFOの承認」と入力します。
- CFOの承認は、すべてのレコードで実行される処理であるため、フィルタ条件は特に設定しません。
- 「承認者の選択」セクションで「割り当て先」を指定して、CFOの名前を選択します。
- 承認者のユーザレコードで代理承認者が指定されている場合は、必要に応じて、「代理承認者もこの申請を承認可能にする。」チェックボックスをオンにします。
- CFOによって却下された申請はその時点で完全に却下となるため、「このステップの却下時のアクションすべておよび最終却下時のアクションすべてを実行します。(最終却下)」を選択します。

- 最終承認時のアクションとして、以下の内容を追加します。
  - 内定申請を提出したユーザに承認通知を送信する電子メールアクションを追加します。
  - 「内定承認済み」チェックボックスの値を自動的にオンに変更する項目自動更新のアクションを追加します。
- 最終却下時のアクションとして、以下の内容を追加します。
  - マネージャに、内定申請が却下されたという通知を送信する電子メールアクションを追加します。
- 「採用候補者」オブジェクトのページレイアウトに「承認履歴」関連リストを追加します。詳細については、オンラインヘルプで「ページレイアウトのカスタマイズ」のトピックを参照してください。
- 「未承認申請」関連リストをユーザのホームページに追加します。これにより、対応が必要な承認申請が提出されていることがSalesforceにログインした時点でわかるようになります。ホームページのレイアウトを変更する方法については、オンラインヘルプで「ホームページレイアウトの設計」のトピックを参照してください。
- Sandboxが利用可能な場合は、承認プロセスのテストを実行します。
- 承認プロセスを有効化します。